

# 日本語 – Japanese

## 何が可能か...

ジョン Shortell

Copyright©2004to 20 21



これはあなたを驚かせる物語であり、実際に起こったことを受け入れるのに苦労するかもしれません。あなたが経験している場合は、「のような奇跡」イベント自身、または1つの証人となつては、今、あなたは一人ではありません知っていて、それが「それについての話には、[OK]を、S。これらの奇跡の多くは起こり、人々は周囲の人々の態度のためにそれらを却下します。奇跡を信じて育ててくれたお母さんに恵まれました。

この ISN 「T だけの話、それは」 あなたがその何かを学ぶための機会だが、あなた自身の生活の中で可能です。物語を通して、私は私が学んだと私は、これらのスキル練習し、開発することができるようになったか何について話します、私たちはすべて持っていると言っています。

私はちょうど必要だったものを推測していなかった、初期の私の人生で私は直感的に知っていた、信頼と 28 歳の時、私はアクティブ電車に開始したが、実際この話があったことをポイントにこれらのスキルを開発するだけではなく、可能性はなく、たぶん、たぶん、避けられないことさえあります。私の意図は、あなたがこれらのスキルを学び、あなたが自分自身を見つけた状況に関係なくあなたの人生に変化をもたらすことができることをあなたに示すことです。

あなたが自分の人生と状況のコントロールを取り戻すことに興味があるなら、私たちもあなたのためにプロセスを始めることができるように、読んで私に連絡してください。あなたがいる場合、すでにしているの制御はすべて、それが順風満帆であるあなたのために、あなたは私のようなものです。私はすでに成功していて、私の人生の中ですでに小さな奇跡を生み出していたので、私がここで提供しているもののようなものを探していませんでした。私は何を実現することであることを、私は 28 だったときに何が私に提供された有効 d は私が正確に何をやって他人を簡単に教えるために私を。私の人生の多くは他の人にこれについて話しました、そして彼らは私が共有していることを彼らが受け入れたり理解したりする場所にいませんでした。これは多分あなたも。私たちの何人かと一緒に、私たちの教訓は、私たちがすでに知っていることを他の人と共有することでより良くなることです。以下のためのあなたは、この情報を学習の OME 自分のためには優先事項です。

どちらがあなたにとっても、私たちが不可能だと思っていたことが実際に可能であり、可能性さえあり得るという氷を砕くだけでも、ここにあなたにとって価値があることを保証します...

話は、私が車のホイールで眠りに落ちて、真っ逆さまにポールにぶつかったという話です。その夜は集中治療室に行き着き、医療スタッフは私が夜を過ごすことを期待していませんでした。翌日、私の肺と他のいくつかの臓器を1.5個取り出したいと思っていました...。2。5日後、私は手術なしで退院しました。

そう .....

何ができるのか.....

- 私は自分の目的を知っています
- 私は自分の情熱と心の欲望に従うことをいとわないところまで自分自身を信頼し、自分自身の感性とインスピレーションを大切にしています

交通事故前の生活

m 個の場合は y の一生私は、人々が自分自身と自分の内側の直感を信頼手助けすることを知っていました。私は人々に彼らがどこから来たのか、どこへ行くのか、そしてなぜ彼らがここにいるのかを教え、彼ら自身を精神的に理解するビジネスを始めました。私は1987年からこのパートタイムで教えていました。

このスピリチュアルなビジネスを成長させる代わりに、私は気が散って別のビジネスを始めました。

私のビジネスが成長し、実際に離陸したとき、それは私が自分の健康に熱心に取り組みながら人々の健康を助けることに焦点を合わせていたからです。私は信じられないほど強力な栄養補助食品を服用し、私の結果をみんなと共有していました（これはこれらのサプリメントの結果であった可能性があります）。

私がこれらのサプリメントを服用し始めた後、私の体の中で物事が変化し始めたように見えました。私はずっと前に誰かがサプリメントを服用していて、彼らが違いに気づいていないとき、サプリメントはその人のニーズには不十分かもしれないことを学びました。人々を見ることは変更に住んでいる、と見 ING のそれをするために登場する彼らの健康と RID 取り戻す鼎彼らは単に受け入れるようになっていたことを、痛みの自分自身を、非常に私のために鼓舞されました。私は人生のほとんどを痛みの中で過ごしましたが、誰もいくつかの簡単な真実を説明することができませんでした。それを実行すると、私の健康に大きな違いが生まれました。その時、私は助けを必要としている人を助けることに非常に集中するようになりました。

私は、この健康ビジネスからの残余所得が月に5000ドルに達したときに、人々が精神的に自分自身と人生の旅を理解するのに助けることに戻ることを約束しました。私の収入は月に1万ドルをはるかに超えて成長し続け、約束を忘れていました。私の全体的な焦点は、より多くの収入を生み出すことにありました。どういうわけか、私は彼らの生活の中でお金に焦点を合わせている私の周りの人々に耳を傾け始めま

した。私は何のためにトラックから外れた気づいていなかった**私**はとやってみたかった**私**の人生。

私たちの心が叫ぶことは、どれくらいの頻度で起こりますか、私たちは何か他のことが起こるまで延期します。今日のほとんどの人にとって、これはしばしばお金に関係しています。

その時は.....

交通事故 2003年6月29日

私はその週末、田舎で私たちの健康ビジネスのリーダーのためのリーダーシップキャンプを促進していました。誰もが疲れていて、日曜日の午後半ばに家に帰りました。

帰りに何人かのクライアントと夕食の約束をしたので、午後4時頃に出発しました。リネット（私の当時の妻）、ヘレン（私の妹）、そして他の何人かは、私と一緒にいるために誰かが私と一緒に旅行するようにと主張し続けました。私は一人で行くことになっていることを非常に明確にしました。

私は週末に行った仕事に本当に満足して元気に出発しました。週末は、人々が彼らの成功に責任を持ち、彼らが彼らの人生の結果をコントロールしていることを理解するのを助けることについてでした。

私は3時間の旅行の約1時間で町に着きました、そして非常に疲れていて眠く感じていました。この町の反対側で、私は車の中で眠りに落ちました。どうやら誰かがフォローしていて、彼らは私が織り始めたと言ったが、道路の私の側にとどまり、また減速し始めた。

私の車は対向車を通り過ぎて道路を横切った。道路の反対側の溝にぶつかり、エアバッグが膨らみ、目が覚めた。エアバッグが膨らむと、車が白い粉でいっぱいになり、何も見えなくなりました。何も見えなかった理由がわからなかった。

何も見えなかったので、どこで車を操縦すればいいのかわからず、右側のドアに沿って切り株を叩き、さらに左側に操縦して、パイプが入った堤防（私道）にぶつかった。）そして2つのフロントタイヤが吹き飛んだ。次に、右側のゲートポストにぶつかり、さらに左に曲がりました。大きな堤防の脇を車が下っていくのを感じました。これは深い「V」ドレインでした。私はそれに沿って排水溝の底にいました。

エアバッグのほこりは、電柱が目の前に来るのを見るのに十分なほど低くなりました...非常に速く。ステアリングを切ろうとしたところ、ハンドルがまったく反応しませんでした（後でタイヤが切れたことがわかりました）。

ポールが上がるのを見た瞬間、私の人生は私の目を過ぎて瞬きました。私はリネット（当時の妻）とアンバー（3歳の娘）と私の目的を見て、今が私の死ぬ時ではないことを知っていました。

私は天使たちに強調して言いました

「これはそうではありません、私の時代は終わりません！」

私がこれを言った瞬間、白い光が上から車にやって来て、渦巻きで私を取り囲み、保護エネルギーの繭に包まれました。同時に、私は車がポールにぶつかってその中で休むようになるというビジョンを与えられ、それから私は車の前を歩き回り、2人の男性が私の両側に1人ずつ助けてくれました。それから私は大丈夫だと知っていました。

私は大丈夫だと思って、リラックスして事故に身を任せました。 **私は全く恐れがなく、完全に信頼していました。**

私はずっと意識を保ち、車が止まると胸の怪我が深刻であることがわかりましたが、ほんの一瞬でも死ぬとは思っていませんでした。私は、事故から立ち去って大丈夫であるという私のスピリチュアルヘルパーのチームから受け取ったビジョンを信頼しました。

車は車の前部中央のポール（警察は時速 85 km と推定）に衝突し、その後停止しました。私をフォローしている人は、私がポールに加速したと言いました。どうやらこれは、ブレーキではなくアクセルを踏んだことに人々が気付いていないために起こります。

車が止まり、肺に空気を入れるのに必死になりました。まるで曲がりくねっているようなものでした（後で、肺が血で満たされていることがわかりました）。

どこにも血はありませんでした。実際、事故で受けた唯一の切り傷は、右すねの小さな切り傷で、わずか1センチの血が滴り落ちていました。

二人の男が車の私の側に駆け寄ってきて、私は車が燃えている（エアバッグからのほこりが煙のように見えた）と叫んだ。彼らは車のドアを開けようとし、感電で後ろに投げ出された。

車はカーバッテリーで電化されていると思いました。

私は今、少し息をすることができました。

私はコンソールと携帯電話に持っていた 700 ドルの現金を手にとった。

彼らは、ドアが曲がった場所の上部に指を置いて運転席のドアを開けるまで、何度もドアを開けようとしていました。その後、ドアを引っ張りました。彼らがドアを握っている間ずっと、彼らは感電を経験していました。車のすべてのパネルが座屈していました。車はかなり短かったです！運転席のドアも溝の切り株によって損傷していた。

ドアが開いたら、金属部分には触れないでくださいと言われました。それで、私は非常に注意深くインチごとに動き回って、一人で出ました。二人の男はそれぞれ腕

を取り、私が座っているときに車の前に私を案内してくれました。これは私が持っていたビジョンと同じように起こりました。

横になったら死ぬことを心から知っていました。座ったままでいれば大丈夫だと思いました。私は膝を上げ、両手で胸を持ち、頭を前に傾けて座った。座った瞬間、私は自分の体にエネルギーを注ぎ始め、心の中ですべてが以前よりも良く修復されているのを見ました。毎秒、私は自分の体を再建するという目の前の仕事に集中していました。

車はいたるところに止まっていた。

以来、エアバッグは、複数の衝突事故では無効である、彼らは私の状況で、私はそれを必要と溝とではなかった最初のインパクト、と展開します。ポールを叩いたとき、エアバッグは役に立たなかった（実際、私がポールを叩いたところ、ハンドルからボルトが突き出していた）。

冬の日曜日の午後 5 時でしたが、まだ少し明るいですが、寒く、曇り、冷たい風が吹いていました。

人々が駆け寄ってきた。

私の隣にしゃがみ込んで来た女性が、看護師だと言った。彼女は私にいくつかの質問をしました。私は大丈夫だと言ったのを覚えています、多くの人を傷つけ、呼吸に問題がありました。

誰かが暖かさのために私の周りに銀の「スペースブランケット」を置きました。冷たいそよ風が背中に吹いていました。

リネットは私の後ろに約 1 時間移動していたので、私は彼女に電話をかける必要があることを知っていました。彼女がまだ移動範囲にいないことも知っていました。彼女の車の中には、4月の琥珀（継娘）と双子を妊娠していた妹のヘレンがいました。

私は鳴ってメッセージを残しました、

「こんにちはハニー、ちょっとした計画があったことをお知らせします。彼らは私を診察のために病院に連れて行ってくれます。すべて順調。」

それから私は、キャンプにいて、たった 10 分の距離にある私が通りかかったばかりの町に住んでいた私の親友のマイケルに電話をかけました。

私は鳴って言った、

「マイケル私は重大な自動車事故に遭ったので、あなたの助けが必要です。リネットはすぐにここに来るでしょう、そして彼女がここに着いたら私はあなたがここにいます、私はそのようなところにいます、そしてそのような電源を切ります。」

マイケルは約 10 分で現場に到着しました

私はマイケルに、感謝したいので私を車から降ろしてくれた 2 人の男性を探すように頼みました。マイケルは私に戻ってきて、私が打ったポールが 66,000 ボルトを運んでいて、絶縁体が壊れていて、3本のワイヤーがポールを下って車を通り抜けていたので、NOBODY が車に触れるべきだったと言いました。車に触れた人はおそらく死ぬだろうと彼は言った。

彼は群衆の中を動き回り、私を連れ出した二人の男が誰であるか知っているかどうかみんなに尋ねました。彼はそれらを見つけることができず、人々は誰も事故現場を去っていないと言った。

警察が到着し、私が車の中で一人にいるのかと尋ねました。私は自動的に「いいえ」と言いました。なぜ彼らが私に尋ねたのか全く考えていませんでした。彼らは立ち去って戻ってきて、私に車の中で一人にいるのかともう一度尋ねました、そして再び私は「いいえ」と言いました。彼らは 3 回目に戻ってきて、「あなたと一緒に車の中に誰かいましたか？」という声にかなりの懸念を持って尋ねました。彼らが体を探しているときになぜ彼らが私に尋ねているのかを私は理解しました。「いいえ」と言って、「いいえ、車の中には誰もいませんでした」と言って驚いた。

救急車が到着しました。

救急車の職員が私にいくつか質問をしました。それから彼は私が最寄りの都市の主要な病院に行く必要があると判断しました

救急隊員は私を背骨板に寝かせようとした。彼らは私を 2cm 後方に動かすだけで、私は立ち止まるように叫んだ。痛みは信じられないほどで、私の体のすべての緊張のために、彼らが私をそのように下げることができないことを私は知っていました。その後、彼らは私を再び直立位置に戻しました。

明らかに壊れた肋骨で体を保護するために、体をしっかりと保持しなければなりません。彼らが私を、何かひどいことが起こるだろうと彼らが意図していた方法で私を下げたなら、それは私の死にさえつながるかもしれないことを私は知っていました。

私は頭の中で天使たちに「私は何をするつもりですか？」と尋ねました。

私の天使たちは、私がしっかりと引き継ぐ必要があります、彼らに何をすべきかを教える必要があると言いました。私の天使たちは私に言った、「私たちがあなたに言うことを人々に繰り返さない」。

それで私は救急車の男に私の天使が私に言っていることを非常にしっかりと繰り返しましたが、指示がどこから来たのか彼に話しませんでした、

「これが私たちがやろうとしていることです。数人の男性が背骨板を背中に対して垂直に強く保持し、すべての筋肉をリラックスできるようにまでゆっくりと強く押し続けます（一緒に体）そして私はボードが私の体重のすべてを取ることを許可します。リラックスして筋肉を手放すと、ボードにもたれかかってしまいます。次に、私の信号で、ボードを非常にゆっくりとスムーズに下げ始めることができる

ので、筋肉を再び締めることはありません。私が下がったら、ボードに沿って私をインチで留めることができます。これには約 15 分かかります。」

この時点で私はこれらの男性と私の天使を完全に信頼しなければならなかったもので、私は精神的に集まりました。私は自分の人生を彼らの手に委ねていることを知っていました。彼らはこれを行い、私は私とボードを下げ始めると言いましたが、それはスムーズでゆっくりでなければなりませんでした！しばらく時間がかかりました。私が降ろされたら、私は彼らにボードに沿って私をインチするように言いました。

彼らはこれをして、それから私をトロリーに持ち上げました。男性の救急隊員が私と一緒に後ろにやって来ました。

救急車に入ると、彼は私にモルヒネを与えるつもりだと言い、私は「いいえ」と言いました。

彼は私に「あなたは苦しんでいませんか？」と尋ねました。「想像もできないような痛み、信じられないほどの痛み」と私は言いました。

「では、なぜモルヒネが欲しくないのですか？」彼は尋ねた。

私はこう答えました。「私を地球に根付かせているのは痛みだけです。私は KNO を私はモルヒネを持っていた場合、私は単に死にオフに漂流することを私の心の中にワット I KNO 痛みワット私は、私はまだヘクターという事実に存在私を維持、地球上の接地された私を保つ s の VE の」物理的な身体を。

「病院に着いたら『一緒にいて』、自分に何が起きているのかを感じて、何が起きているのかを正確に伝えることができるようになりたい」と語った。。そういえば、将来は生きて病院に到着し、スタッフに大切な情報を提供できるようになりたいと思っていました。私は死ぬことを考えたことはありません。それで、次の数日間、私は自分の将来と何が起ころかについて絶えず話しました。これは意識的な選択ではありませんでしたが、私が生きるという揺るぎない信念の結果でした。

{子供の頃、私はしばしばつま先を突き刺し、その激しい種類の痛みで傷ついていました。ある日、このような痛みをどうやって取り除くことができるかを天使に尋ねたところ、天使は「痛みを取り除くことはできませんが、それを受け入れることができ、それと一体になって、それが機能を持っていることに気づきます」と言いました。それで、私は自分自身に、痛みの目的は何であるかを考えました。痛みは何かがおかしいと私に言うことであり、私の体のその部分には注意が必要であることに気づきました。それで私は再び私の天使に「痛みは私の体の注意が必要な領域の指標ですか？」と尋ねました。答えは「はい」でした。

それから私は、「痛みがその仕事をしたことを認め、その地域が必要とする注意を完全に認識し、必要な行動を取り始めれば、もはや痛みは必要ないのですか？」と尋ねました。返事は「はい」でした。

私は子供の頃からこれを実践し始めました。スピリチュアルヘルパー（天使）との会話をしたとき、私は 10 歳以下だったと思います。そして、痛みについて学んだことはうまくいきました。按手とそれが癒しにどれほど強力であるかを理解したの

で、癒しが必要な領域にエネルギーを向けることについて理解しました。私はつま先を突き刺し、すぐに痛みのメッセージを受け入れて、

- 1) 痛みのメッセージを受け入れ、その仕事をしてくれたことに感謝します。
- 2) エネルギーをその地域に向ける
- 3) 完全にリラックスし、痛みが「痛い」という考えを片付けてください。それは、現在受け入れられているメッセージを送信しているだけです。
- 4) 痛みはすぐに軽減し、しばしば完全に消えます。}

私と一緒にいた救急車の男は、次の小さな町までは乗り心地が荒いと言って、私はOKと言いました。

私たちはゆっくりとサイレンなしで旅行しました（ライトについてはわかりません）乗り心地は遅くて苦痛でした。

私はすべてのバンプを感じ、すべての動きは非常に苦痛でした。私は自分の体がどのようになりたいか、健康で、強く、そして健康であることに焦点を合わせ続けました。私は自分の体が癒されて完成したものとして視覚化していました。

病院に行って間もなく携帯電話が鳴り、事故の際に行くのは自分の予定だった。私は電話に出なければならないと言った。彼女と彼女の家族が私に夕食を期待していたので、私は私が来ないことを彼女に知らせる必要がありました。彼はネックブレースを元に戻さないと言った。電話が鳴っていたので、私はそれを元に戻すように非常に厳しく言いました、そして彼は私が私の頭を動かさないことを約束した場合にのみ言った。私は「はい」と言いました、そして彼はそれを解きました。私は電話に出て、私は私たちの約束をすることができず、私は2週間の時間のスケジュールを変更しなければならないと言いました、そして彼女は大丈夫です。謝罪してさよならを言いました。私は無意識のうちに、私が回復し、1週間かそこらでその予定に入ることが**絶対**にはっきりしていたので、行くべきものがあることを設定していました。

私も携帯電話でマイケルに話しました。

リネットとアンバーと同時に病院に到着しました。そしてマイケルも彼の車に到着しました。

私が巻き込まれたとき、男性の救急車の人が看護師に私のことを話しているのを聞いたが、彼が言ったことは何も理解できなかった。

私たちは緊急セクションにいました。

彼らは私の服を切り落としたいと思っていました、そして私が着ていたシャツは私にとって非常に重要なシャツであり、私はそれを着続けたいと思ったので、私は彼らに私のポロシャツを切り落とさないように言いました。彼らはそれを降りるのがどれほど難しいかを説明しました、そして私は大丈夫と言いました、それから始めましょう。

腕を上げてひねらなければならなかったので、それを外すのは非常に痛かった。



肋骨が折れ、胸骨が骨折しましたが、鎮痛剤はまだありませんでした。

琥珀とリネットがやって来て、琥珀が私の手を取り、「パパは大丈夫ですか？」と私に尋ねました。

この時点で全員が立ち止まり、私の返事を待っている間、完全に沈黙していました。

私は頭を向け、彼女の目を見て、私の周りのすべての看護師と医師を指差して、「これらすべての人々が走り回っているのを見ますか？」と言いました。「はい」琥珀は答えました。

「この時点で、私が大丈夫だと気づいていないので、彼らはみんな走り回っています！」

あなたはその緊急治療室でピンが落ちるのを聞くことができました。おそらく 15 秒間、誰も動いたり何も言わなかった。

琥珀は微笑んでリラックスし、私たちは手をつないでいきました。

私は自分の将来について話すようなテクニックを意識的に積極的に話そうとはしていませんでしたが、これが起こったのです。私が持っていたほとんどの会話や考えは、将来誰かと何かをしていることについてでした。私は数年後までこれに気づかなかった、これが私がしたことである。

私は自分が置かれている状況について力強く前向きに話すために、自分の内なる規律を構築するために多くの仕事をしました。

私は否定性が私の意識に入ることを許しませんでした。私は自分の周りにいるすべての人を「これがどうなるか」という私の領域に持ち込むことに熱心でした。私は精神からの途方もない支援を感じ、私の周りに精神の存在を感じました。私は自分のビジョンをはっきりとはっきりと感じました。恐れはまったくありませんでした。私はすべてがうまくいくと信じ続けました。

私がしたことは、あなたが神、イエス、仏陀、モハマド、スピリットを信じているかどうか、あるいは誰も、あるいは誰も信じていないかどうかにかかわらず、誰にとっても可能であると信じています。あなたが想像するものが何であれ、それを可能にするのは、実際にはあなたの神、またはあなた自身とのつながりの深さです。

これは、あなたが自分自身を無防備にさせ、無条件に自分自身を愛することを許した場合にのみ起こり得ます。これには本当に何か、特に勇気が必要です。

それはすべての抵抗を手放す必要があります。

{私が抵抗しているとき、私は実際に私が抵抗しているオブジェクトに焦点を合わせています。

私に向かってくるものは理由で引き付けられます、そして私はほとんどの場合その理由が何であるかを知りません。私が何かに抵抗しているとき、私はそれを経験することを延期しています。私が抵抗しているこのことは、私がその上に私の未来を

築くことを可能にする基盤の一部です。私がそれを私の人生に許さないとき、私の人生は待機パターンに入り、私が抵抗しているものが浮かび上がり続けます。

無意識のうちに、私は将来いつか必要な人に成長するのに役立つ経験を引き付け続けます。その人は、今ここにいるあなたが準備ができていない将来の状況に対処できるようにになります。

人生のある場所にたどり着き、「過去に経験したことで、人生の次の冒険に備えることができた」と自分に言い聞かせる頻度はどれくらいですか。自分の人生に引き付けられる経験を受け入れるとき、私は自由と安らぎを持って人生を歩み、適切な場所に適切なタイミングで行き着きます。

他の人が私たちに何かをするように与える理由に抵抗することがありますが、それは通常それが彼らの理由であり、私たちではなく彼らに利益をもたらすからです。私が見るとき、そしてもちろん私が特定の経験をする理由を見つけるとき、私はその経験を受け入れ、抵抗するのをやめます。

自分の大きな目的がはっきりしないので抵抗することもあります。これは、何も見えず、目の前に何があるのかわからないときに、暗闇の中で押し進められるようなものです。

考えてみてください...目の前に何があるのかわからないときはゆっくりと動きたいと思いますが、目の前にあるものがわかっていて暗ければ、自信を持って前に進むことができます。

自分が力強く取り組んだ経験を振り返ると、「この瞬間に何が準備できたのか」と自問します。そうすれば、この以前の経験が、今振り返っている経験にどのように備えることができたかを理解し、見て、知り、感じるのに役立つインスピレーションを得ることができます。

私はこのことを数十年にわたって教えており、**Livingit**に取り組んできました。}

琥珀の手を握り、リネットと話している間、私は少しの間そこに横になりました。

ある時点で、私は救急治療室の片側に運ばれ、トロリーの両側に2人の看護師が立っていました。彼らはお互いに話していて、1人は彼女が妊娠するのに苦労していると言っていました。私は聞いて、「私はそれであなたを助けることができます！」と言いました。彼らは両方ともかなりショックを受けたように見えました！私は彼女を助けることができるかもしれない素晴らしい健康製品と素晴らしいパーソナルケア製品を配布していると説明しました。これらは今、体を再建するために体に栄養を与えている製品であり、通常の製品ではないことを説明しました。私は彼女の体から毒素を取り除き、それ以上入れるのをやめることの重要性を説明しました。私は多くのパーソナルケア製品がそれらの中に潜在的に有害な成分を持っているかもしれないと説明しました。また、私たちの食べ物には、かつてのようなレベルの栄養が含まれていないことも説明しました。

多くのカップルがこれらの製品を始めてから妊娠に成功したことを説明しました、そしてそれらのカップルはそれが違いを生んだ製品であったかもしれないと思いま

した。それで私は彼女に私の電話番号を教えて、彼女が数日で私に電話することを提案しました、そして私は彼女のために製品を整理するでしょう。私は家に帰る準備ができているトロリーにちょうど横たわっているようにこれをしました。彼女は私の番号を受け取ったが、私に電話をかけたことはなかった...

彼らは猫のスキャンと多くの X 線写真を撮りました。X 線が終わるまで私はまだモルヒネを主張しませんでした。

その後、彼らはすべての X 線と猫のスキャンを再度行いました。理由はわかりません。

X 線の最初のロットで、痛みについて考え、意識を保つのに苦労したことを覚えています。彼らがもう一度やり直さなければならないと言ったとき、私はリラックスしてそれを受け入れるだけで禅の場所に入ったことを覚えています。最初のロットの X 線についてはあまり覚えていませんが、2 番目の猫のスキャンと X 線をかなりはっきりと覚えています。

マイケルと同じように、妹のヘレンが入って話しましたが、緊急治療室だったので、アンバーを除いて一度に 1 つしか入れず、リネットが彼女と一緒に入るのを許可しました。

私は物事についておしゃべりしましたが、事故や私の状態については何も話さずに、会話が通常の日常のことについてであることを確認した以外は、本当に思い出せません。

私は常に明確で、それがどのように実行されるかを約束しました。

非常に遅く、集中治療室に巻き込まれたのは真夜中頃だったと思いますが、この段階では、痛みを覚えていないのでモルヒネを受け取っていたと思います。

私の姉妹の友人の一人はこの病院の集中治療室の看護師でした、そして彼女は数週間後に私の姉妹に、私が夜中にいつか死ぬつもりだったので私を単に快適にするように外科医が私を世話する看護師に言ったと言いました...

彼らは私を柔らかい空気のベッドに持ち上げ、医者は私に胸骨の真上にモルヒネを注射してくれました。彼は「これはあなたが眠るのを助けるでしょう」と言いました。

私は彼に、「私は眠りません。やるが多すぎます」と言いました。彼は私を奇妙に見て、「どういう意味ですか」と尋ねました。「再建する体があります!!」と答えました。

私は絶えずエネルギーを私の体に癒しを必要とするすべての部分に向けていました。私は、内臓が自分自身を再構築し、「正常である」ことに焦点を合わせて想像しました。私はこれを一晩中続けました。私はウイנקを眠ったことはありません...忙しすぎます。

リネット、アンバー、エイプリル、ヘレン、マイケルはみんな別々に来て、おやすみなさいと言いました。私は朝に彼らに会うと言って、彼らと彼らがどこに滞在していたかについて話し合いを続けました。彼らは自分たちでモーターを予約し、すでに夕食を食べていました。私はおやすみなさいと言って、私は彼らを愛していて大丈夫だと彼らに言うことを強調しました。私は彼らを安心させたかったので、私が大丈夫だとわかっていたので彼らは心配しませんでした。

ベッドの端で看護師とおしゃべりをしましたが、会話が思い出せません。（彼女は覚えているかもしれません）。

ある時、私は本当に排尿する必要があると言いました。彼女は私にボトルをくれました、そして私がどんなに頑張っても私は横になっている間それを排尿することができませんでした。彼女は、私がそれを管理できないなら、彼らはカテーテルを挿入するだろうと言いました。私はそれが起こることは決してないだろうと言いました！

私は 1 時間以上ボトルをおしっこしようとしてしましたが、できませんでした。15 時間以上前の日曜日のランチタイムから排尿していませんでした。

それから私は立ち上がって泣くという考えを思いついた。私は看護師に「ベッドから出るのを手伝ってくれませんか」と尋ねました。彼女は「何のために？」と尋ねました。「立ち上がっておしっこする」と言ったら、「立ち上がらせてはいけない！」と言った。

私は「私は立っています。あなたが私がベッドから出るのを手伝ってくれるか、私が自分でそれをするかのどちらかです！」と言いました。

彼女はそれから私を助けてくれました、そして私を立たせるのにちょうど約 5 分かかりました。

そこで私は半暗闇の中で左腕でドリップスタンドを持って立っていて、看護師が私のために持っていたボトルに排尿していました。

私はそれをいっぱいにして、それは床に溢れ始めました。彼女は「待って、私は別のボトルを手に入れます」と私は言いました。流れを止めたくなかった。ボトルは床全体に溢れ続けました。

看護師は笑い始め、「私は誰もこれらの 1 つを埋めるのを見たことがありません！私はそれを拭く必要があると思います！」

この時点で笑うことは選択肢ではなかったので、私は自分自身に笑いました。私の中に持っていたその笑いは私にとって重要でした。

私をベッドに戻すのにさらに 5 分かかりました。看護師と私はもっとおしゃべりを始めました、そして私が目を覚ます必要があることを私が何をしていたかを彼女が尋ねたのを覚えています。なぜ寝ていないのか、仕事をしているのかを説明しました。

私は特に私の体の周りにエネルギーを向け、私の体が明るい光を放射し、光が不足している領域や他の領域ほど明るくない領域を埋めているのを見ていました。

これが私がやった方法です。

私は宇宙を眺め、宇宙を抱きしめているように腕が宇宙に伸びているのを想像しました。これを行うことはエネルギーを引き込むことであり、それは私の腕を絶えず溢れさせていたので、一掃するたびに私はこのエネルギーの絶対的な豊富さを想像していたので、私は自分に必要な以上のものがあることを知っていました。私はそれが松果体（冠）で頭のとっぺんに入り、それが必要だと感じたところまで私の体の周りを動かすことを想像しました。私が取っていた素晴らしいサプリメントから、私の体が私の体のさまざまな場所に蓄えている栄養素のストックパイルを使用してそれを見ました。数年の間、人々は私に「なぜあなたはそんなに多くのサプリメントを服用しているのですか？」と言っていました。昔は笑顔で「できるから」と言っていました。尋ねられるたびに、私は単に自分自身を信頼し、それらを取り続けました。事故後、予防や事故の際にサプリメントを摂ることの大切さを実感しました。ほとんどの人は栄養素が不足しているので、緊急時に体が修理作業のためにすぐに原材料を必要とするとき、体は他の場所から清掃する必要があります。これは私の生存の不可欠な部分だと思います。

時々夜中に私は巨大な漏斗を設置し、天使たちにこのエネルギーを私のために向けて漏斗に送るように頼みました。こうすることで、自分の体が再建され、自分がやりたいと思っていた将来のすべての活動を行うことを想像することに、より多くの時間を費やすことができました。

私は 80 年代半ばにネパールのヒマラヤをトレッキングしましたが、とても気に入り、いつも帰りたいたいと思っていました。琥珀が生まれた瞬間から、私は彼女に旅行のスライドを見せて、彼女が約 20 歳で、私が 60 歳近くのときに一緒に行くのとどれほど素晴らしいかについて話してきました。これを行うには、心が若く、健康な体が強くなければならないことを常に知っていました。私の人生のほとんどは、非常にひどい背中や頭痛などで病気や痛みを感じていました。これは、以前よりも体をより良く再建するチャンスだと思いました。（私は人生の早い段階で「**事故前**」について言及したことはありません。）

集中治療室でのその夜は、私がこれまでで最も集中していたことであり、また、これまでで最も長く継続的に集中していたことでもありました。

翌朝、胸部外科医は彼のラウンドに到着し、12 時頃にたくさんの人々（医師）を連れていました。彼らは私がまだ生きていたことに驚いたと思います。

彼は私のベッドの端に立って私のチャートを見ました。彼は私を見上げて、「あなたにはかなり深刻な怪我があります」と言いました。

私は彼を振り返り、「そうですか...」と言いました。私は彼の発言の前提を受け入れないことは明らかだった。

彼は、私は 1 つ取る必要があります」と回答し、半数肺 S とあなたの脾臓を。私が手術をするとき、私は他に何かをする必要があるかどうかを評価することができます。」

私は彼を見て指さし、「あなたは胸部外科医ですよ？」と言いました。

彼は「はい」と答えました

再び彼に指を向けると、私は彼にまっすぐに言いました。「まあ、あなたの仕事は、それが決して起こらないようにするために私が何を必要があるかを私に教えることです」。私は私を言ったとき、私は指摘に私の自己文の残りの部分のために戻って彼のその後と。

彼と一緒に人々は皆、一歩後退した。

彼は数分間私を黙って見ました。私は天使たちに必要な情報を確実に入手するように頼んでいました。それから彼は静かにそして落ち着いて言いました。できるだけ多くの血を咳をします。また、深く呼吸し、できるだけ多くの血を吐きながら歩き回ってほしい。」

私はオーケーと言いました"。

彼は去り、看護師と私はただお互いを見つめた。

胸骨が骨折し、肋骨が折れた...

咳と深呼吸のアイデア.....

私はそこに1時間横になり、立ち上がって歩き回る勇気を集めました。

それから私は看護師にベッドから出るのに彼女の助けが必要だと言いました、そして彼女は「私はあなたが起き上がるのを許していません」と言いました。

私は「ドクは立ち上がって歩き回って深く呼吸する必要があると言った。それが私がやろうとしていることだ」と言った。

彼女は「彼は今は意味がなかった」と強調して言った

私は、「私は今それをしているので、あなたは私が起きるのを手伝うか、私が自分で起きることができます」と答えました。

彼女は顔に少しニヤリと笑い、私を助けてくれました。ベッドから出て立っているのを手伝うのに約5分かかりました。そこに立っていたのはかなりの成果のように感じました。私は非常にゆっくりと出発しました。5秒ごとに1ステップ。私は深く呼吸し、ベッドにいる間にすでに数回行ったように血を吐き出していました。血を吐くたびに立ち止まった。その後、再び出発しました。私はベッドから約15歩離れていて、完全に一掃されました。エネルギーが残っていなかったので振り返ると、ベッドがどれだけ離れているのか信じられませんでした。前の晩に取り組んだように、私はベッドに戻る15のステップに取り組みました。それに照準を合わせて、私の体が反応するのを視覚化しました。私はベッドに戻り、そこに横たわって回復しました。

私の体は信じられないほど弱かった。私は人生で何度もマラソンを走ってきましたが、その15のステップは、どのマラソンよりも疲れ果てていました。

事故で私の体のすべての筋肉はそれの強さを失いました、そしてそれは私がそれぞれの筋肉の強さを再構築しなければならない赤ちゃんのようでした。

私は自分の体にエネルギーを注ぎ込み、自分の体が自分自身を再構築することを想像し続けました。

看護師はまだ私のベッドの端に座っていて、他の人が一晩中していたように私を見守っていました。

1時間後、私はそれをすべてやり直す準備ができていると言いました。彼女は私を助けてくれ、私は出発した。結局、集中治療室を一周しました。

もう一度、私は完全に過ごした私のベッドに戻りました。

私がそこに横たわっているとき、看護師は私に「あなたがどれほど幸運であるかを知っていますか？」と尋ねました。

私は答えました、「私はそうは思わない、それはおそらくあなたが私に質問をしている理由です」

彼女は、「特定の自動車事故の死亡速度と呼ばれるものがあります。これは、その速度以上で、車内のすべての人が死亡することを意味します。静止した物体（ポールなど）への正面衝突の場合、死の速度は時速 60km です。今週、ここにはあなたとまったく同じ事故を起こした 2 人の別々の人がいて、正面衝突でポールにぶつかりました。彼らは両方とも時速 60km を走っていて、両方とも死にました、それでもあなたは時速 85 km を走っていて、あなたは生きていました。あなたはかなり幸運です。」

私はそれが運ではないことを知っていましたが、彼女は私がそれをどのようにしたのか知りたくないと感じました。私はそこに横になり、天使たちに「どうして私は生き残ったのに彼らは生き残れなかったのか」と尋ねました。

彼らからの返事は明確で、「あなたは助けを求めた」でした。

私は彼らに「他の人は何をしましたか？」と尋ねました。

彼らはね」と言っ EE ポールが来るとああ、いや「と言います！私は死ぬつもりです！'そして彼らは死ぬ。」

しばらく考えて横になりました。

私は何十年にもわたって自分自身で行ったすべての自己啓発の仕事と、自分の限界（または自分の無限）を見つけることにどれほど熱心であったか、そして自分自身と自分が感じていることを信頼することをどのように学んだかについて考えました。私は自分が成長していたときに、他の人が自分についてどう思っているか、そして自分が「正しい」ことをしているのかどうかについて、どのように心配していたかを考えました。たくさんのことを考えました。私はそれが運ではないことを知っていました...

私は自分の人生を振り返り、みんなが嫌いなことをしないようにと言っていたときに自分が選んだ選択に気づきましたが、**自分にとって正しいことはわかっていました。**

事故から 5 年後、約 100 人の事業で研修をしていて、スカイダイビングに行った時の話をし始めたところ、研修の途中で突然、スカイダイビングに行かなかったら自

分に気づきました。事故で亡くなった可能性があります。私は部屋の前に立って目に見えて動いて、自分の強さと自分に合っていると心の中で知っていることをやり遂げる意欲に感謝していると感じました。話をさせてください...

80年代半ば（20代半ば）に私はビクトリア州の大きな町に住んでいて、ある夜、それらのライフスタイルショーの1つを見ていました。タンデムスカイダイビングで、誰かに自分を縛り付けるセグメントがありました。彼らが何をしているのかを彼らが知っているように数千回ジャンプすると、あなたは完全に良い飛行機から飛び降りて、地球の自由落下に急降下します。何年もスカイダイビングをしたかったのですが、一人でやったら死ぬかもしれないと思っていました。コードが効かず、シュートが開かないのが気になりました。ですから、タンデムスカイダイビングでは、経験豊富な人ならどんな状況にも対応できるので、心配する必要はありませんでした。

私は翌朝テレビ局に電話をかけ、彼らがタンデムジャンプをした場所を見つけました。シドニーの外でした。私の父はシドニーに住んでいて、私は上って彼と一緒にいて車を借りることができたので、それは大丈夫でした。私はフライトを予約し、彼に電話をかけ、私が来ると彼に言いました（私はなぜ私が来るのか彼に言わないほど頭が良かったです）。

私はショーを見た4日後にシドニーに到着し、車を借りて、彼らが運営する滑走路まで2時間運転しました。

私はこの時私が関係で多くの問題を抱えていたことを付け加えるかもしれませんが。私はこの女の子を愛していましたが、うまくいきませんでした。リチャード・バックの『ブリッジ・アクロス・フォーエバー』という本も読んでいました。この本は、ソウルメイトの概念と、私たちが本当に特定の人に運命づけられているかどうかについて書かれていました。私がシドニーに到着したときにたまたま読んでいた本の一部は、リチャードが彼のソウルメイトとの関係を処理できず、小さな単一のエンジン飛行機に乗ったときでした。クラッシュし、シュートが機能しませんでした。状況は私が自分で設定していたものと非常に似ていました。私は自分の時間の前に死ぬので、スピリットが私に従わないように言っているのだらうかと思いました。私の心の中で、私は従うことが重要であることを知っていました。私は死の恐怖を克服したいと思っていました。私はそれが重要であることを知っていました。私がどれほど重要かを理解するのにさらに20年かかりました。また、シドニーでの2日間は、未知の世界に支配されることなく、恐怖を乗り越えていくために、私の人生に力強く立ち向かったことも知っています。

私が滑走路に到着したとき、それは飛行機が離陸し、人々がいたところを動き回るのに忙しかった。雲が少なく、太陽が輝いていた美しい日でした。

登録してお金を払いました。彼らはそのお金は返金できないと説明した。彼らは私を訓練に連れて行ってきて、私に合っていました。

風が強くなり、通常のスカイダイビングはまだ続いているのに、一定の風速を超えるとタンデムダイビングができないと言われました。風が弱まるのを待っている日中、本を読んだり、他のスカイダイビングを見たり、トイレに何度も足を運んだりして、何も残っていませんでした...



午前 10 時頃から夕暮れまで一日中待ちました。彼らは最も謝罪し、朝の午前 5 時に戻ってきたら、朝のその時間はいつも風が弱く、ジャンプできるだろうと言った。私は大丈夫と言って家に帰りました。

私は家に帰って夕食をとり、一晩中本を読みました。リチャードが死んだかどうか知りたかったのです。その本の中に私へのメッセージがあるかどうかを理解しようとしていました。私が通信する方法を学んだ前に、この物語が起こったので、はっきりと、私は今そうであるように、私の天使/精神的なヘルパーに。

私は早くベッドから出て、この時点で入ってくるものが私をまっすぐに通り抜けていることを知って少し朝食をとりました...

私は午前 5 時に滑走路に到着しましたが、空気はまだ残っていました。彼らは私が現れたことに驚いた。彼らは誰もが持っていたことを言った **今までに** 次の日に戻ってきません。彼らは私を飛行機に連れて行き、上部で私は車輪の上の小さな金属板に足を踏み入れるように言われました。プレートは 1.5 セットの足に十分な大きさでした。私は **絶対におびえた** 金属棒にぶら下がっていました。私は実際に私が私の死にジャンプしているように感じました。

私は引き抜くつもりはなかったし、もし私がここで死ぬつもりだったのなら、今もそうだ。私に縛られた男は「ジャンプ」と叫び、私は手放した。その時点で私は半意識に陥りました。私の目は開いていましたが、すべてが真っ黒でした。私は自分の環境や自分がどこにいるのか、何が起きているのかを意識的に意識していませんでした。でも遠くから声が聞こえてきました。私たちが転倒しているとき、声は私の足を押し上げるように私に叫んでいました。彼の口は私の耳のすぐ隣にありましたが、彼は 1 マイル離れているように聞こえました。しばらくして、何が起きているのか、なぜなのかよくわからないまま、足を上げました。それは夢のようで、私は胎児の位置に丸まっていて、何が起きているのか、どこにいるのかわかりませんでした。私が足を押し上げると、私たちはスピンから平らになり、彼は私に「もう一秒、私はリップコードを引っ張るつもりだった」と言った。

私たちは、地球に落下していなかったと私はありませんでした。この段階で知っていた **絶対** に私はそれについて何もできないが。この時点で私が死ぬつもりだったなら、私はそれを止めることができませんでした。だから私は旅行を楽しむことにしました。私は自分の状況を受け入れました。

私は周りを見回しましたが、それでも転倒して速くなる感覚を経験していることがどれほど奇妙であるかを信じることはできませんでした。

最終的に彼はリップコードを引っ張って、私は「フーピー」を出しました!!!。彼は私に「彼らは皆そうしている」と言った。私たちは降りてきて、小さな円の中に着陸しました。他のすべてのスカイダイバーが私のところにやって来て、「あなたはそれが好きでしたか？」と尋ねました。

「絶対に！」と答えました。

それから彼らは「それであなたはまたそれをするつもりですか？」と言いました。

「いいえ」と答えました

彼らは皆私に尋ねました、  
"なぜだめですか?"

私は「今、私はそこに行ってそれをしたからです！」と答えました。

その経験が私を立ち上げたので、私は死への恐怖を解放することができました。

集中治療室の病院に戻ります。

日中、私はまだ自分自身を癒すことに信じられないほど集中していました。

3回目に起きて深く呼吸し、集中治療室に向かいました。私が散歩に行くたびに、看護師は私のすぐ隣にいて、必要に応じて助けてくれる準備ができていました。彼女は歩いているときに私を抱きしめたことは一度もありませんでした。彼女は私が自分でそれをすることの重要性を感じたと思います。

この3回目、彼女は私に「あなたはあなたの周りに何をしていますか？」と言いました。

「意識不明の人がたくさん」と答えました

私が集中治療室にいた16時間ほどの間、他の患者を見たのはこれだけでした。彼らが私の意識や意識の中になかったので、彼らを見なかったのではありませんでした。

それから彼女は「なぜそうだと思いますか？」と言いました。

私は彼女に手をかざし、手のひらを伸ばして、「知りたくない、元気になることに集中している！」と言いました。

それから彼女は私に「私はあなたの外科医に15分ごとに電話をかけ、あなたは私の集中治療室に属していないことを彼に話しました」と言いました。私は微笑んで彼女に同意した。

今回の散歩では、広い部屋を2周しました。2周目に彼女は私に「シャワーを浴びたいですか？」と尋ねました。

私は彼女を見て、そうするだろうと言った、そしてそれは私が気分が良くなり、気分が良くてリフレッシュするのに役立つと確信している。

私がベッドに戻ったとき、彼女はそれをすべて準備するのに少し時間がかかるだろう、そして彼女はすぐに私を迎えに来るだろうと言った。彼女は今私を一人で残していた。彼女が私が良くなっているのを見ることができたという明確な兆候（当時私はこれに気づいていませんでしたが）。

30分後、彼女は戻ってきて私を連れてきました。私はまだ彼女の助けを必要として起きて、私たちはシャワーに向かった。

彼女は私を脱いで、それらの白いプラスチックの椅子の1つに完全に裸で座って、ハンドヘルドシャワーローズを私の手に置いて、すぐに戻ってくると言いました。

私は何も動かすことができませんでした、私にできることは彼女が私を置いたのと同じ位置にそこに座ることだけでした。水を動かすことが全くできませんでした。

彼女が戻ってきてドアの周りに頭を突っ込んだとき、彼女はしばらく行っていたようでした。彼女は私が大丈夫かどうか尋ねましたが、私はそう言いました。

それから彼女は「ここに何人かの看護師がいます。彼らが来ても大丈夫ですか？」と言いました。

とても大きな笑顔で「そして彼らは何を見たいのか」と尋ねました。

彼女は素敵な笑いで答えました「彼らはシャワーであなたに会いたがっています！」

「そう思った...持ってきて！」と笑い返しました。

私がシャワーローズを持って裸でそこに座っていたとき、他の看護師は皆シャワールームに詰め込まれました。私の看護師は、「どのくらい言っ D あなたがこの集中治療ユニットはここにいたと思います o を？」

私は「わからない、おそらく 70 年だと思う。」

彼女は「そうです、そしてあなたはそれにシャワーを浴びた最初の人です。我々ではできなかった彼らは、人々がスポンジ風呂を与えられている集中治療ユニットにシャワーを置く理由を考え出しました！」

私たちはみんな笑った。

彼らは続けて、シャワーが常に貯蔵室として使用されていたので、それを片付けて掃除しなければならなかった方法を説明しました。

リネットとアンバーは日中よく私を訪ねてきました。

午後 4 時頃までに、整然とした人が来て、私を集中治療室から追い出し、病棟に連れて行ってくれました。

私が病棟に運ばれた後、リネットとアンバーは私を病院の食堂に連れて行き、私たちは皆一緒に夕食をとり、普通のことについて話しました。

その月曜日の夜、私は眠りたかったのですが、病棟に地獄の看護師がいて、トレイやモップ、バケツをすべて叩き、一晩中大声で歩き回っていました。

私は胸に非常に特別なヒーリングクリームをこすりつけ、通常毎日服用している特別な栄養補助食品を服用していました。リネットは私のためにそれらを持ってきました。

火曜日の朝、整然と来て、私を再び X 線撮影に連れて行き、彼らはさらに胸部 X 線写真を撮り、それから私を再び私のベッドに運びました。

毎時、時にはもっと頻繁に、私は廊下を上下に散歩しましたが、それでも深呼吸をし、少量の血を吐き出していました。私は独立していて、通常の歩行ペースよりも少し遅いペースで動いていました。

私は数回の電話と数人の訪問者を持っていました。これらの訪問者の 1 人は、私の姉妹の友人であった集中治療看護師でした。

私が病棟にいたとき、重大な自動車事故で怪我をする原因を調査している看護師がやって来て、自動車メーカーがこれらの怪我を最小限に抑えるように車の設計を調整できるようにしました。

彼女はたくさんの質問をしました

一つの質問は「私の視力を妨げるものはありましたか？」でした。

私の答えは「はい」でした

彼女は「それは何だったの？」と尋ねました。

「まぶた！」と答えました。

彼女は私が冗談を言ったことに気づかずにそれを書き留めました、そしてそれから彼女は私を見上げました、そして私は彼女が私を評価しているのを見ることができました。彼女はそれから笑った。

それから私は「エアバッグのほこりが原因で、車を安全に操縦する場所がわからなくなった」と言いました。

看護師も尼僧でした。彼女は私が生きていたことがどれほど素晴らしいかについて私と話しました。彼女が私にインタビューしている間、エンジニアが私の車を評価していました。一週間後、友人のマイケルと私が車を見に行き、車からいくつかのものを集めたとき、それを保管していた男性が「何人の人が車の中で死んだのか」と尋ねました。マイケルは誰ディと言わ Ed は、あなたがそれを生き残った男を見ていません。彼はショックを受けて、私が生きていたことがどれほど素晴らしいか（または同様の言葉）と言いました

水曜日の朝、胸部外科医が私に会いに来て、私の周りのカーテンを引っ張って、「私はそのようなものを見たことがない...」と頭を左右に振っていました。

この時点で、私は実際に「これは私が自分で実現させてきたものよりも悪いかもしれない...」と実際に考えました。

彼は次のように述べています。「昨日撮った X 線を信じられなかったので、メルボルの胸部外科医に電話しました。彼と私は 24 時間起きていて、日曜日の夕方と昨日の朝から X 線を眺めていました。彼はあなたの肺の 1.5 を取り出すという私の最初の診断に同意しました。彼はまた、私の現在の診断に同意します。あなたは今、喫煙したことのない 10 代の若者の 2 つの真新しい肺を持っているということです。」

私は「私は 43 歳です」と言いました

彼は言った、「私は知っている...」

私はとても興奮していました...私は成功しました...

私は「今何が起きているのか」と尋ねました。

彼は「あなたは家に帰ることができます」と答えました

「どれくらい早く？」と聞いた。

彼は「できるだけ早く」と答えました。私はあなたが癒しの技術をやっているのを聞くとyというOUがされても服用サプリメントを、これは明らかにされて働いて、あなたのために、あなたがより良いオフに自宅になります。」

1時間後にエレベーターが到着して家に帰ったとき、私は自分の蒸気で病院を出ました。

事故から2週間以内に、ターザンのように胸を叩くことができました。

私の肋骨の骨折と胸骨の骨折はうまく治癒していました。

私たち全員が自分自身と私たちが得たアイデアやインスピレーションを信頼していたら、それは素晴らしいことではないでしょうか？

私たちは本当に自分自身をどれだけ信頼していますか？

私は1987年以来、長年にわたって、私は自分で持っている信念と信頼を知っていると私は可能だ、非常に増加しています。これは主に、私が現在[www.enjoyinnerpeace.com.au](http://www.enjoyinnerpeace.com.au)を通じて共有しているのと同じ仕事によるものです。このウェブサイトには、家にいる間、または同じ旅で同じ考えを持つ他の人々と共有することで、精神的な成長を追求できるアイテムがたくさんあります。

あなたはどのようにあなたの精神ジョンのようなガイド付きの仕事に学びたい場合や、あなたがから来ているどこに、誰であるかについての詳細を学ぶために欠けている、あなたが行くとあなたがここにいる理由、そしてに行く時間のウェブサイトである [WWW.お楽しみくださいinnerpeace.com.au](http://WWW.お楽しみくださいinnerpeace.com.au)

彼のサイトに一度そこに

まず、[ストーリー]タブで20分のビデオをご覧ください

次に、eBookを購入します。

第三に、あなたは、ホームスタディプログラムを購入することができ、あなたがすることができて作業自分で、自分の家での

第四に、あなたがあなたのスピリチュアルヘルパーとの明確な双方向のコミュニケーションを確立/洗練するオリエンテーションプロフィールのための一対一の相談のためにあなた自身を予約してください。

あなたの精神的な成長を追求したいどのくらいに応じて、そこにある精神性と利用できる多くの他のサービスに600以上のコース。

ウェブサイト [www.enjoyinnerpeace.com.au](http://www.enjoyinnerpeace.com.au) を探索してください。質問がある場合は、質問してください。

ジョンは人々に彼らのスピリットガイドと話す方法、彼ら自身を信頼する方法、彼らの人生の目的を見つける方法、そしてそれを追求する勇気を持っている方法を教える世界をツアーします。

ジョンがあなたの地域に来ることを望むなら、[www.enjoyinnerpeace.com.au](http://www.enjoyinnerpeace.com.au) ウェブサイトを通して彼または彼のスタッフに連絡してください。

あなたは英語でも堪能であり、場合にもエラーがある中翻訳の英語版からこの翻訳版には、私のオフィスの知らせてくださいとあなたが私たちのために翻訳を再確認するために満足しているならば、我々は喜んのためのワード文書のバージョンを転送しますあなたが編集します。よろしくお願いします☺